

編集後記

○1985年は国連婦人の10年の最終年でした。徳川の鎖国時代に築かれたといわれる男性優位社会（つまり封建制社会）が、ようやく崩れ始め、この10年のあいだに女性の社会的自立は、ずいぶん進みました。しかしながら、依然として古い体質がはびこっていることも事実です。本号の特集稿で、直井道子先生は、現在の年金制度が、性別役割分業を前提としてつくられている点を指摘されています。そうです。婦人年は、この先まだまだ続くのです。愛と勇気を持って！

○ 最近、本誌の発刊が遅い、と読者からお叱りを頂きました。季節に間に合うように努力しておりますが、やむを得ぬ事情で遅れることもありました。深くお詫びいたします。今後、編集部一同、頭にハチマキして、本誌を季刊誌としての機能を維持しながら、より一層建設的なものにしてゆきたいと考えております。本誌に対するご意見・ご希望など、お寄せ下さい。

○ ところで、76年ぶりにハレー彗星が地球の近くに来ています。欧ソ日米の各国が、それぞれ探査機を飛ばしていますが、私にはどうも、ハレー彗星の方が、“宇宙船地球号は大丈夫かな”と探索にみえたのではないか、という気がしてなりません。

銀河鉄道に乗った夜、天の川へ旅したジョバンニは、幸福への道を進む“活力”を得て、地上に戻って来ました。賢治の夢の世界にあやかって、ジオット、ベガ、すいせい、などの諸氏（探査機）は、平和への“活力”を地球人に持ち帰ってくれるのでしょうか。……期待しています。

○ こんな物語を書きたくなったのは、晩秋の或る晴れた夜でした。久しぶりに夜空の星をながめて、ひととき宇宙の神秘に魅せられ、雄大な空想とロマンの世界に誘惑されてしまったからでしょうか。1986年は国際平和年。明るい年となりますように。 (F. M)

編集委員長 福 武 直 (社会保障研究所長)

編集委員 青 井 和 夫 (津田塾大学教授)
飯 野 靖 四 (慶応義塾大学教授)
小 林 良 二 (東京都立大学助教授)
小 山 路 男 (上智大学教授)
地 主 重 美 (千葉大学教授)

都 村 敦 子 (社会保障研究所研究部長)
保 坂 哲 哉 (金沢大学教授)
堀 勝 洋 (社会保障研究所調査部長)
三 浦 文 夫 (日本社会事業大学教授)
安 川 正 彬 (慶応義塾大学教授)

編集幹事 曾 原 利 満 (社会保障研究所主任研究員)
栃本一三郎 (社会保障研究所研究員)

三上芙美子 (社会保障研究所研究員)

(五十音順)

季刊

社会保障研究 Vol. 21, No. 3, Winter 1985

(通巻 90 号)

昭和 60 年 12 月 25 日 発 行

編集・発行所

社 会 保 障 研 究 所

〒107 東京都港区赤坂 2丁目19番8号

赤坂2丁目アネックスビル内

電話 (589) 1381

製 作

財団法人 東京大学出版会

〒113 東京都文京区本郷 7丁目3番地の1

電話 (811) 8814